

AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

看護研究集録(2015.12) 平成26年度:70.

人工股関節置換術を受ける壮年期患者の復職に対する心理的变化

小川 美紀、沼田 恵、井戸川 みどり

人工股関節置換術を受ける壮年期患者の復職に対する心理的变化

旭川医科大学病院 8階西ナーステーション ○小川 美紀、沼田 恵、井戸川みどり

【目的】

壮年期の人工股関節置換術（以下 THA とする）を施行した患者の復職に対する考えや心理が術前と退院前にどのように変化するかを明らかにする。

【方法】

2013年8～11月にTHAを施行した壮年期の患者2名に術前と退院前に各1回ずつ半構成的面接を実施した。内容は①症状に対する思い②現在の職業と役割、環境③復職の予定や転職への考えとした。面接内容は蓄語録にし、復職に対する思いを抽出後、コード化し、類似した内容をカテゴリー化した。倫理的配慮についてはA大学倫理委員会の承認を得た。

【結果】

A氏は入院時から退院前にかけて機能回復や肢位制限による仕事継続の困難感や転職を含めた復職への期待を抱き続けており、退院前にその内容が具体的に変わった。

B氏は入院時から退院時にかけて仕事継続への意欲があったが、退院前には意欲に加えて仕事継続への期待が生じた。

【考察】

A氏は現在の身体状況から今後へ向けた自分の課題が明確になり、具体的な目標を考えることにつながった。またA氏の患者背景を理解し、尊重した上で復職への意欲の維持、向上へ向け、具体的な目標を設定できるよう意思を支えながら関る必要があると考える。B氏は医療者と復職について話し、身体機能が回復し、不良肢位に注意することができるようになったことで復職可能ではないかという期待が生じたと考える。

【結論】

1、A氏、B氏とも入院時、退院前では復職への思いに大きな変化はなかったがA氏は仕事継続に対する思いが具体的になり、B氏は仕事継続への意欲に加え、期待が生じていた。

2、患者が復職することへ向け、仕事に対する思いを尊重し、意思を支え、自信を持てるように支援していく必要がある。